

国史跡盛岡城跡

—第 37 次調査—

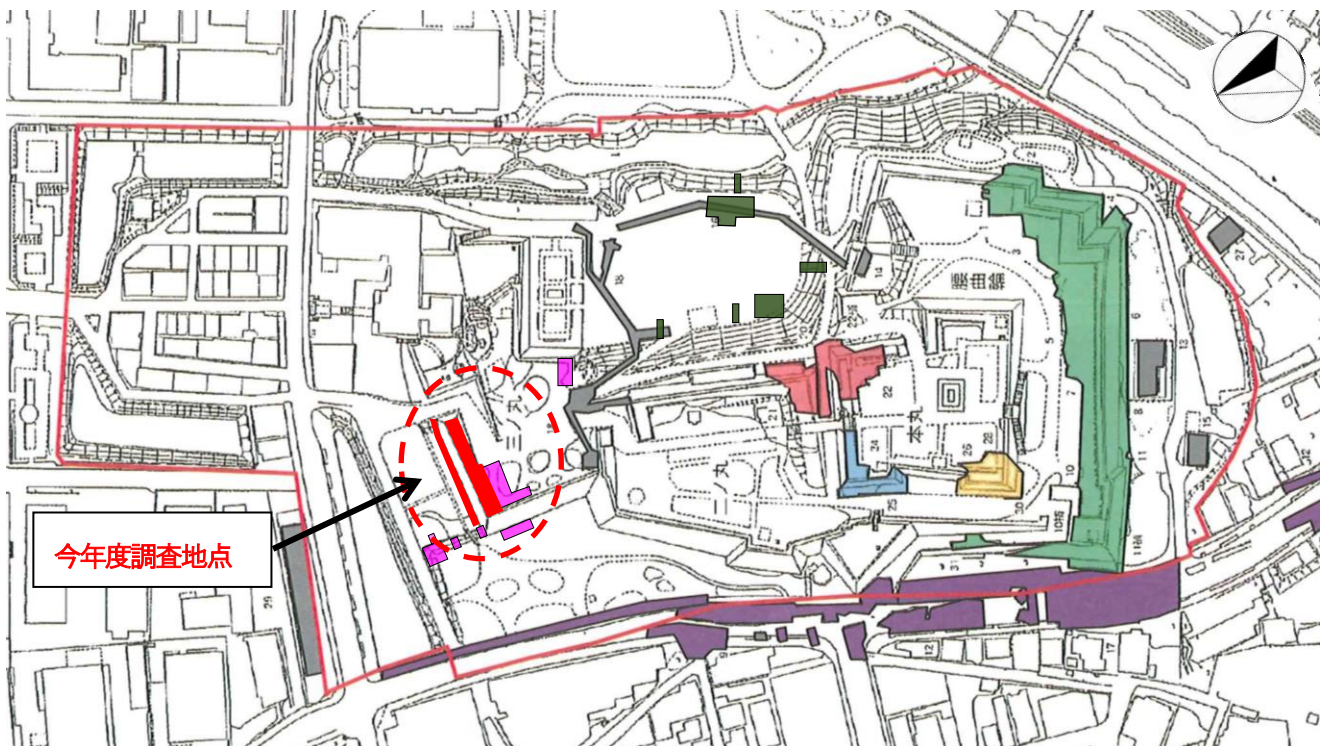
○盛岡城について

盛岡城は、旧北上川と中津川の合流点の丘陵地を利用して築かれた平山城です。初代盛岡藩主南部信直が慶長 3 年(1598)、豊臣秀吉から築城普請の許可を得て、築城工事が進められました。おおよその完成を見た寛永 10 年(1633)に3代藩主南部重直が入城して以来、南部氏 20 万石の居城となりました。

明治維新後、盛岡城は陸軍省の所管となり、城内建物の保存も検討されましたが、荒廃が進み維持が困難なことから、明治 7 年(1874)にそのほとんどは取り壊されてしまいました。その後、公園整備の計画が進められ明治 39 年(1906)に「岩手公園」として開園しました。また、往時を偲ぼせる雄大な石垣が良好に残されていたことから、昭和 12 年(1937)に国指定史跡に指定されました。

○発掘調査について

築城以来、400 年以上も風雪に耐えた石垣ですが、近年傷みが目立ちはじめ、崩落の恐れも心配される箇所も出てきました。そこで盛岡市は、平成 24 年度に「史跡盛岡城跡整備基本計画」を策定し、崩落の恐れのある一部石垣の解体修復(積み直し)を行い、それに伴う発掘調査を実施しています。これまでの調査で、石垣の変遷や構築方法なども徐々に明らかになりつつあります。



■ 本丸北東・二ノ丸南東 (H5~6)	■ 淡路丸 (S59~H2)
■ 本丸北西 (H8)	■ 本丸南西 (H10~12)
■ 三ノ丸北西・南東 (H25~27)	■ 台所 (H28~)
■ 都市計画道路拡幅 (S62~H1)	■ 確認調査等

第1図 盛岡城跡全体図および発掘調査実施箇所

第 37 次発掘調査成果(9 月 30 日現在)

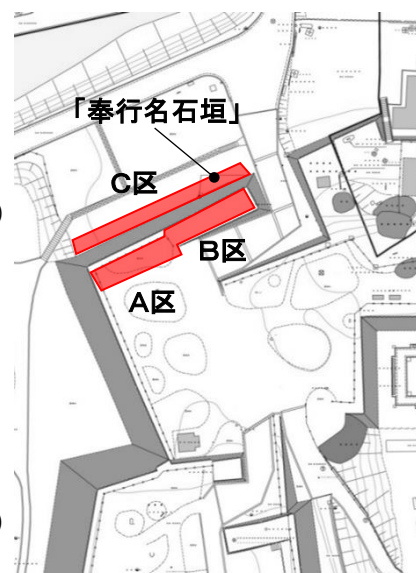
調査期間	平成 29 年 7 月 25 日～同年 11 月下旬 (予定)
調査位置	三ノ丸北西石垣上面 (A 区), 三ノ丸瓦門北側石垣上面 (B 区) 三ノ丸北西石垣下面 (C 区)
調査目的	三ノ丸北西石垣解体修理に伴う事前調査
調査面積	約 260 m ²
確認した遺構	

A 区 天端石・栗石・盛土 (盛岡城 2 期・4 期)

B 区 天端石・栗石・盛土 (盛岡城 4 期)

C 区 根石・根石据方 (盛岡城 2 期または 4 期), 根固石 (盛岡城 4 期)

出土遺物 藩政期 軒丸瓦 (双鶴文), 軒平瓦 (葛文), 平瓦・丸瓦片



第2図 調査区位置図

調査内容

第 37 次調査は、石垣変位調査や目視等で変位が大きいと確認されている、三ノ丸北西部北面の石垣解体修理に伴い、内部の栗石や盛土の状況、根石の深さ等を確認するために実施しています。

A 区・・・北西部上面に位置し、栗石や盛土を確認しています。この北面石垣は元和 3 年 (1617) の構築後 (2 期), 宝永 2 年 (1705) に積み直されています (奉行名石垣: 4 期)。4 期の栗石幅は天端石から約 2.5~3.0m です。背面の盛土は栗石から約 2m 内側で新旧の違いがあり、宝永 2 年の石垣修理の際に盛土自体も大幅に削平し、積み直していることが確認できました。また、石垣の北西隅付近でも新旧 (4 期・2 期) の栗石の境目と盛土の境目も確認しています。

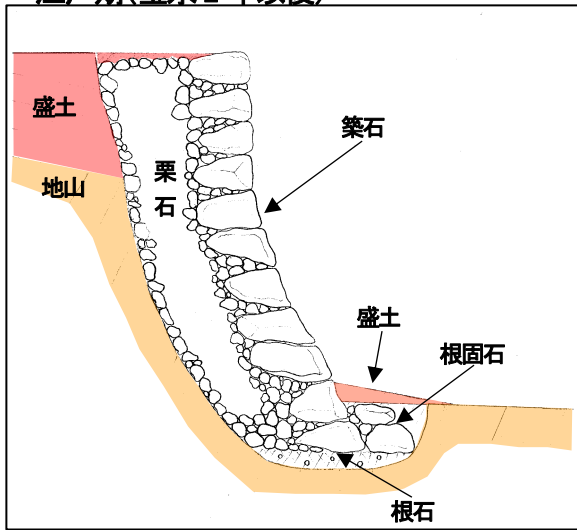
B 区・・・瓦門北側上面に位置し、石垣天端石・栗石・盛土 (4 期以降) を確認しています。栗石上面の盛土は、これまで三ノ丸の調査では確認されていない盛土で、おそらく公園整備時にこの場所は、あまり削平を受けなかったため残存したものであると考えられます。この盛土は、切り崩した花崗岩風化層を主体とする他の地点の盛土と異なり、小礫を多く含む締りのない脆い粘質土が主体を占め、廃棄された瓦片が大量に含まれていました。また、この盛土直下の石垣内部には栗石のみが充填されていると考えられます。盛土上面で瓦門建物跡の礎石等の確認も行っていますが、残念ながら現段階では確認できていません。

C 区・・・北西部下面に位置し、石垣根石・根石据方、根石前面の根固石を確認しています。根石と根固石の一部は表土より上に露出しているものがありました。つまり、公園整備以降に根石を覆う地山や盛土が、削平されている可能性が高いと考えられます。根固石は、一部抜き取られている部分 (近代の建物建築の際か) もありますが、当初は全ての根石前面に設置されていたものと考えられます。使用石材は花崗岩の自然石が多いですが、中には矢穴が確認できる割石もあり、2 期と 4 期の矢穴を確認しています。このことから、根固石を設置したのは宝永 2 年の積み直しの際と考えられます。根石は自然面の残る割石や野面石を多く使用していることから、2 期根石を残しているように見えますが、4 期矢穴が残る石材や方形に整形された石材も見受けられることから、根石自体も宝永 2 年に積み直されている可能性も否定できません。

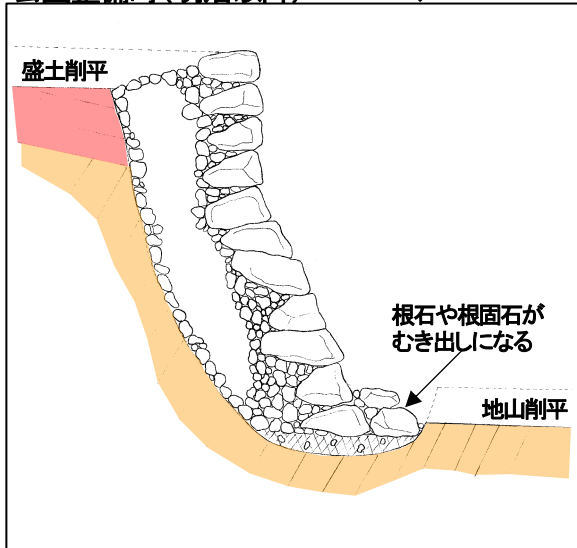
北東隅の根石の周辺も掘り下げて盛土の状況を確認していますが、他の根石部分より比較的盛土が厚く残存し、大幅な削平を免れているようです。しかし、確認した盛土上面も藩政期の生活面を削平している可能性があります。

○三ノ丸北西部北面石垣の変遷図（断面模式図）

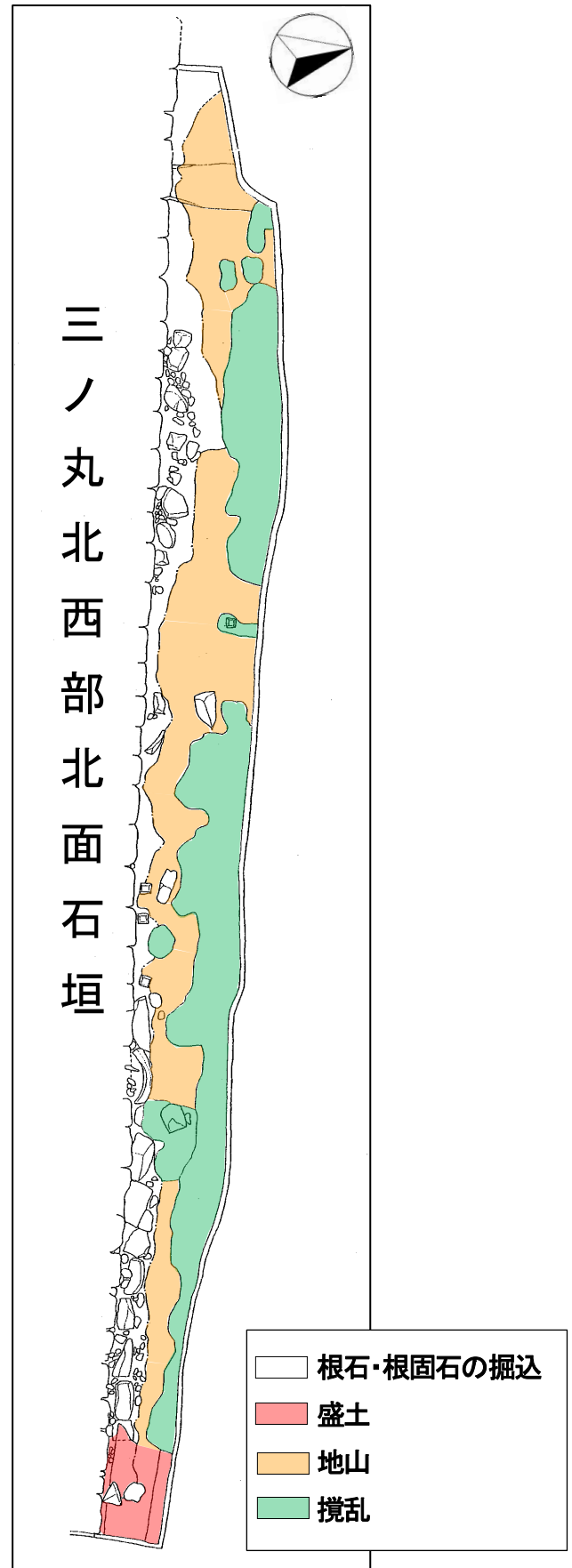
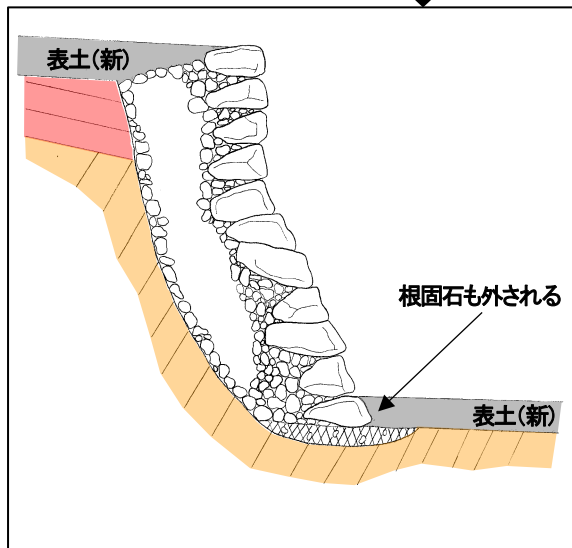
江戸期(宝永2年以後)



公園整備時(明治以降)

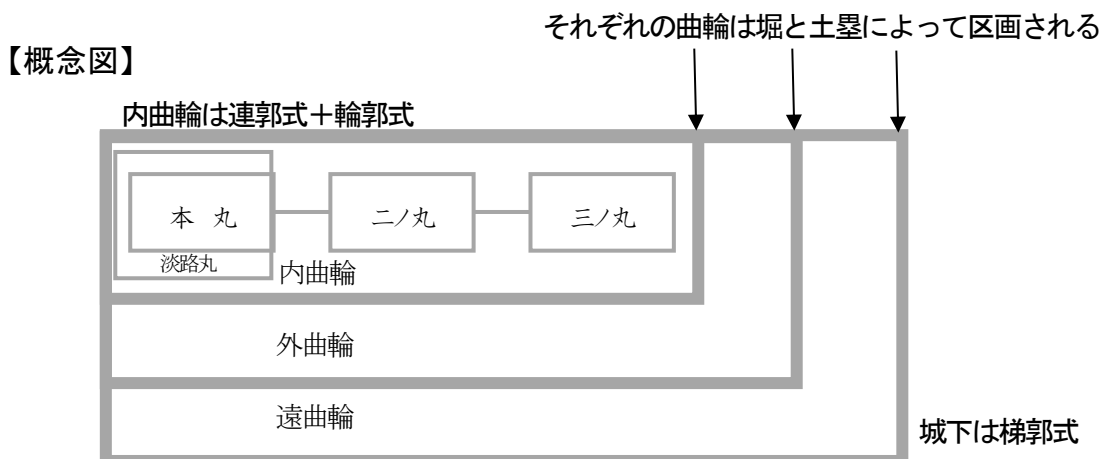


現在



三ノ丸北西部北面下(C区) 平面図(1:200)

○盛岡城の概要



(1) 基本構造

- ① 北上川と中津川の合流点に接した丘陵部に築城(平山城)
- ② 本丸がある内曲輪(城内)を要とし、外曲輪、遠曲輪(総構)の順に扇形に配置(梯郭式)
- ③ 曲輪のそれぞれが堀と土塁で画される。
- ④ 内曲輪は、本丸・二ノ丸・三ノ丸と、下曲輪が段下がりであり、腰曲輪(淡路丸)、榊山稻荷曲輪、台所などの部分から構成(連郭式+輪郭式)

(2) 築城工事等

- ① 築城総奉行…南部信直の嫡子利直を総奉行に歟(鋤)初(慶長2年<1597>)
- ② 着工年代…慶長2年(1597)～慶長3年(1598)
- ③ 工事期間…40年以上→工事の中断(最上出陣・信直の死去・中津川・北上川の洪水等)
- ④ 仮居城…三戸城・福岡城(寛永12年<1635>)・郡山城(寛文7<1667>に廃城)
- ⑤ 完成時期…寛永10年(1633)頃←同年8月、利直の死亡によって重直の初入部(盛岡入)

(3) 築城・石垣普請に関わった人物

- ① 内堀伊豆頼式…近江国出身で元は浅井氏家臣。浅井氏滅亡後、前田利家に仕えていた。九戸合戦後、信直の招聘により南部家に移り、実際の築城の助言者となる。
- ② 奥寺八左衛門…石垣奉行。貞享3年銘石垣(二ノ丸西側)に刻字あり。
- ③ 野田弥右衛門…石垣奉行。貞享3年銘石垣と**宝永2年銘石垣(三ノ丸北側)**に刻字あり。
- ④ 川守田弥五兵衛…石垣奉行。**宝永2年銘石垣**に刻字あり。

(4) 改修事業

- ① 落雷による本丸御殿の延焼(寛永13年<1636>)
- ② 頻繁な石垣普請…洪水・火災・石垣の崩壊
- ③ 本丸の「三重矢倉(櫓)・二階矢倉」の再構築(寛文13年<1673>)
- ④ 三重矢倉(三階櫓)を「天守」と改称させる(天保13年<1842>)

○盛岡城の石垣

(1) 石垣の積み方

①乱積…大ききの異なる石を積上げる方法。石の大ききがバラバラなので、目地は通っていない。

盛岡城の中では、自然石を加工せずに積む方法（野面積）と、石と石が重なる面を増やすため、接合部を打ち欠いて積む方法（打込接）が確認されている。

②布積…大ききが揃った石を横に並べて積上げる。石の大ききが均等で、目地が横に通っている。

③算木積…石垣の隅（コーナー）の積み方。長方形に整形された石を長短互い違いに積む。



乱積(三ノ丸西側)



布積(三ノ丸北側)

(2) 矢穴の種類

矢穴…石材を分割するクサビを打ち込んだ痕。

時期ごとに長さが異なる。

- ・盛岡城1期…9cm～13cm
- ・盛岡城2期…14～21cm（盛岡城で最大）
- ・盛岡城3期以降…4～6cm（盛岡城で最小）



(3) 石垣の種類

乱積…本丸御末門南東部，本丸御末門南東出隅，三ノ丸不明門西側，二ノ丸東面，淡路丸北東隅，淡路丸南西部，本丸三重櫓台，三ノ丸不明門東，二ノ丸南東部，三ノ丸瓦門南東部

布積…二ノ丸西側，二ノ丸北西部，二ノ丸北東，二ノ丸車門，榊山曲輪北，榊山曲輪東，乗者，淡路丸ハバキ，二ノ丸東側ハバキ，二ノ丸北東部石土居，本丸小納戸櫓台

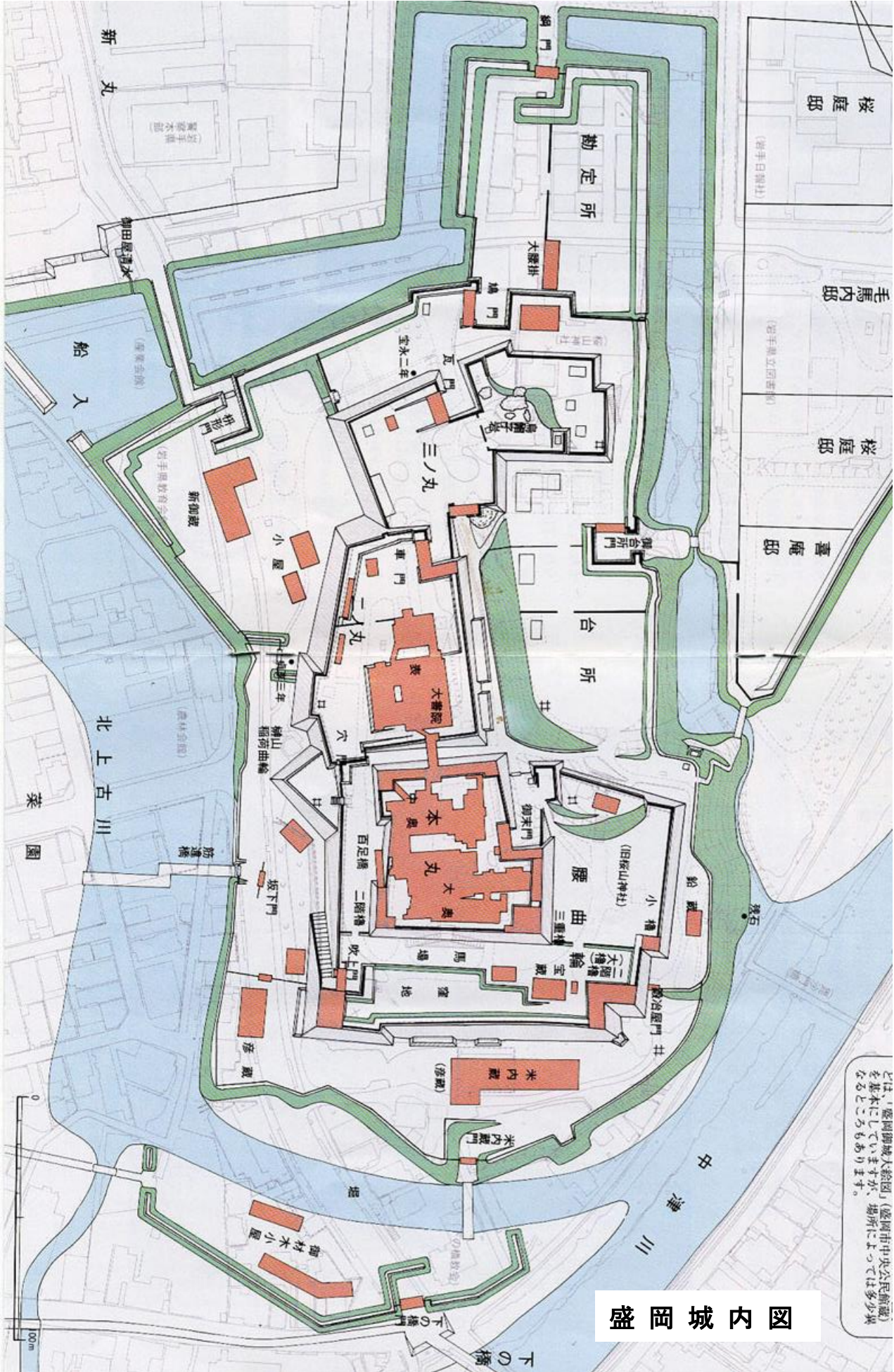
(4) 石切丁場遺跡

- ・東安庭の見石・日影山・金勢に，江戸中期～後期の石切丁場。なだらかな丘陵に大小の花崗岩。矢穴痕の石材が確認。矢穴の大ききから，延宝～宝永年間・寛保年間以降の石切場
- ・城内にも矢穴痕の石材あり。築城当初は城内・近傍（慶善館）から採石された。
- ・外曲輪（本町通りの堀）・八戸氏屋敷（現県庁付近），紺屋町，紫波町長岡から採石・運搬した記録あり。
- ・上米内・白石地区に，石材供給の伝説あり。花崗岩の転石が露呈してるが，矢穴なし。

○盛岡城の石垣様式と遺構の変遷

時 期		年 代	概 要	
不 来 方 城 期	①	不来方城 1 期	14 世紀末頃～	丘陵の頂部から中腹にかけて城郭が築かれる。
	②	不来方城 2a 期	15 世紀末 ～16 世紀前半	丘陵裾部まで拡大される。後の本丸・二ノ丸・三ノ丸・腰曲輪の前身的曲輪が存在した
		不来方城 2b 期	16 世紀後半	本丸付近の堀改修。 腰曲輪の嵩上げ。
盛 岡 城 期	③	盛岡城 1 期	16 世紀終末 (慶長 2 年 : 1597) ～	不来方城を大改修。本丸, 二ノ丸, 城内主要虎口に石垣が築かれる (乱積 A)。石垣は, 角石に割石, 築石に野面石を用いた乱積。腰曲輪の法面は土手のままで木柵が廻る。
	④	盛岡城 2 期	17 世紀前葉 (元和 3 年 : 1617) ～	本丸, 二ノ丸石垣の改修 (本丸の拡張)。城の西側を除き, 腰曲輪・三ノ丸に石垣が構築 (乱積 B) される。 石垣は築石に至るまで割石で乱積。建物に双鶴 (向鶴) 紋の瓦が葺かれる。寛永 13 年 (1636) 本丸の大半を焼失。
	⑤	盛岡城 3 期	17 世紀後葉 (寛文 8 年 : 1668) ～	腰曲輪西側・二ノ丸西側・榊山曲輪の石垣が構築される (布積 A)。本丸再建と腰曲輪などの主な櫓等に赤瓦が葺かれる。
	⑥	盛岡城 4 期	18 世紀前葉～中葉 (宝永元年 : 1704) ～	本丸西側, 二ノ丸北東部, 三ノ丸北側, 腰曲輪西側などの石垣積み直し (布積 B)。 腰曲輪南と二ノ丸東にノバキ石垣構築 (布積 D, 元文 5 年 : 1737～)。 腰曲輪窪地の縮小。
	⑦	盛岡城 5 期	18 世紀後葉 ～19 世紀中葉 (～明治 7 年 : 1874)	腰曲輪窪地の埋め立て。 腰曲輪南西隅櫓を廃止して吹上三社勧請。 城内排水設備の整備。 明治 7 年建物払い下げ, 取り壊し。

(史跡盛岡城跡保存管理計画書より抜粋, 一部加筆修正)



盛岡城内図

これは「盛岡御城大総図」(盛岡市中央公民館蔵)を基本にしていますが、場所によっては多少異なる場合があります。



(もりおか歴史文化館蔵)

「明和三年書上盛岡城図」 (三ノ丸付近一部抜粋)





三ノ丸北西部北面石垣 全景



西から



東から

三ノ丸北西部北面石垣 根固石検出状況



三ノ丸北面石垣（中央） 根石据方掘りこみ



三ノ丸北面石垣（東） 矢穴の残る根固石



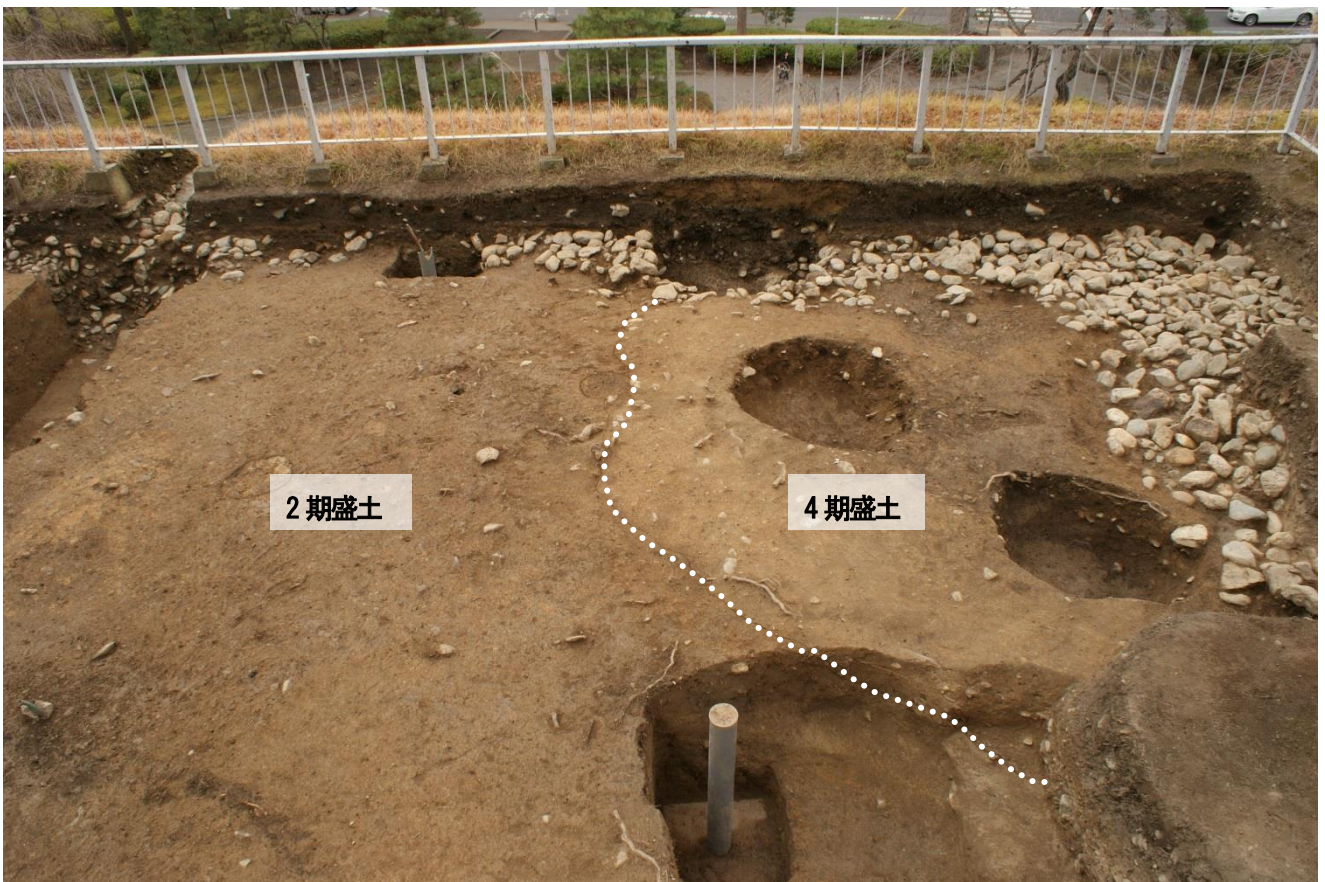
瓦門北側（B区）全景 表土除去状況



瓦門北側（B区）東側 表土除去状況



三ノ丸北西部上面全景（平成 26 年度 第 34 次調査）



三ノ丸北西部上面 2期盛土と4期盛土の境目（平成 26 年度 第 34 次調査）